

図画工作科教育における写実と構成

林 健*・福田 隆眞

On the Realization and Construction of Art and Handicraft Education in Primary School

HAYASHI Takeshi* and FUKUDA Takamasa

(Received July 20, 2006)

キーワード：図画工作 写実 構成 造形方法 創造性

はじめに

- 1 造形方法としての写実と構成
- 2 学習指導要領における造形の方法
- 3 教科書の教材例
- 4 造形方法と創造性

はじめに

筆者はこれまで小学校の造形教育である図画工作科における創造性について考察してきた。(注1) 創造性の育成は一つの方法だけではなく多様な面から可能である。そのために図画工作科では「造形遊び」が1、2学年を対象に昭和52年に導入され、その後、平成元年には4学年まで拡大された。さらには平成10年の教育課程の改訂によって6学年まで造形遊びが導入された。

造形遊びの活動は結果としての作品を評価するのではなく、制作過程における様々な発想や技術・技法への興味関心を喚起することを意図している。また、制作過程に付随して、並べる、積み重ねる、版にして遊ぶなどの構造的な造形方法を主体的に習得することが、当初の目的であった。造形遊びを図画工作科全体に拡大したことにより、材料や場所などの特徴をもとに工夫して楽しい造形活動を促すという内容の変化はあるが、造形的な能力の育成と創造的に表現する態度の育成には変わりはない。

本稿では図画工作科の目的における造形方法について、写実と構成という考え方から考察を進める。それは造形遊びの中にも含まれる造形方法であるかもしれないが、小学校の中学年、高学年ではより明確な造形方法による表現を促すことが、その後の中学校での美術教育によりよい接続を図れると考えられるからである。

1 造形方法としての写実と構成

*山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修 (光市立浅江小学校)

1 造形方法としての写実と構成

造形の方法には大別して二つの方法があると考えられる。写実的方法と構成的方法と称することができる。あるいは再現的方法と非再現的方法ということも可能である。平たく言えば、「写し取る」方法と「組み合わせる、組み立てる」方法ということもできる。ここでは写実と構成と称する。

写実的方法は人間の造形活動の発祥と同時に現れた方法といえる。モデルとなる対象が存在し、それを写し取る、記録する、特徴を捉えて描く、正確に描写するなどの方法である。この方法は結果的に写実的表現でなくてもモデルを対象として再現する方法であるから、子ども描写能力の発達の過程から言えば、スクリブルのあとから出現する象徴期にすでに見ることができる。具体的対象物を写し取ろうとする行為である。

このような写実的方法は西洋美術の歴史でいえば印象派の時代まで続いた。印象派の出現以前の1840年頃には、写真技術の発明と油絵の具のチューブの発明があった。写真技術の発明は、科学的方法によって写実にとって代わる映像の記録を促した。人間が目と手を駆使して正確に対象物を写し取ってきた技術・技法を科学と工学の技術によってより正確に写し取ることができるようになったのである。また油絵の具のチューブの発明は画家が戸外で自由に絵を描くことを可能にした。その結果、概念的であった色彩や形態は固有色や印象的な形態に変化していった。必ずしも正確に写し取る必要がなくなったことにより、画家の個人的な印象や見る人に共通するイメージを描こうとするようになったのである。

また、印象派の人々の試行錯誤により、光、色、画面構成、単純化、デフォルメなどの造形要素の発見と表現技法の開発が進められた。このことは20世紀に入って、バウハウスやヴフテマスといった造形・デザインの専門大学や研究所の出現により、系統的に整理され、造形要素と視覚言語の考え方が確立していくのである。(注2) これは造形の要素を抽出、選択して、造形方法である視覚言語によって色彩や形態を作り出していく方法である。写実のようにモデルとなるものが存在するのではなく、人間のイメージを具現化するために要素と方法を駆使するのである。この造形方法は20世紀の産業の発達、視覚的環境の発達に伴ってデザインの領域で発達していったのである。

このような歴史的な経緯から考えてみると、美術教育の活動において、写実的方法と構成的方法が存在していることが明らかである。写実的方法は主に絵画や具象彫刻の分野、イラストレーションなどで活用され、学校教育においては観察する力、写実力などを育成する。構成的方法はデザイン、工作の分野で活用され、作者のイメージを実現するための方法となっている。

2 学習指導要領における造形の方法

図画工作の指導に当たって、造形の方法は学習指導要領において、どのように提示されているのか、その内容について以下に述べる。(注3)

(1) 1、2学年

造形遊びの内容説明では「並べる、つなぐ、積むなど」の方法で材料を扱うように述べられている。これらは造形遊びが導入されたときからの「構成的な方法」である。

表現の領域では、「いろいろな形を作る」「作り方を考える」という表現で造形方法を示

唆している。絵や立体に表すことが目標であるが、絵に関する造形方法は特に記されていない。

(2) 3、4 学年

造形遊びの領域では、「組み合わせる」「切ってつなぐ」「形を変えてつくる」「新しい形をつくる」「その形から発想してつくりだす」という言葉で、造形方法を促している。これらは全て構成的な方法であり、写実的な方法は記されていない。

表現の領域では、「美しさや用途などを考え」と記されていて、造形方法は明示されていない。描画に関しては基本的に発達段階を自然に受け入れることを前提としていると考えられる。

(3) 5、6 学年

造形遊びの領域では、「構成したり、つくるものと周囲の様子を考え合わせて表したり」と述べられており、基本的に造形遊びは構成的方法による総合的な造形活動と位置づけられている。

表現の領域においても工作やデザインの内容を重視しており、造形方法もそれらの分野に有効なものが採り入れられている。

以上のように、学習指導要領の解説では、図画工作の造形方法は構成的な方法を重視している。それはこの教科全体が工作とデザインを重視していることによるものである。

3 教科書の教材例

それでは、現在図画工作科ではどのような学習が行われているのであろうか。本章では現在使用されている図画工作科教科書の掲載作品を写実的方法と構成的方法の2つの観点から分析することによって、造形方法の特徴を明らかにしたい。

(1) 小学校低学年の教材

低学年の表現の内容は、大きく2つに分けられる。一つは身近な自然物や人口の材料に進んで働きかけ、自由に発想したり、楽しい造形活動を思いついたりしながら体全体を働かせ、思いのままに進める表現であり、「造形遊び」の範疇に属するものである。それに対して、初めに持っているイメージや構想を描画材や立体に表したり、用途や機能のある作品を作るなどの表現活動がある。

低学年の教科書の中では、前者の例として「どんどんならべて」「こっちにおいでよ」「おもしろいかたちいっぱい」「ざいりょうのへんしん」などが挙げられる。いずれも教室や校庭、校外の自然物、洗濯ばさみやテープカッターなどの身の回りのものなど、自分の身近な環境の中に身をおいたり、身近なものを操作したりする中で、楽しく造形活動を進めようとするのである。子どもは始めから明確に作るもののイメージを抱いているわけではなく、材料や場所の特徴を感じながら遊ぶ中で見立てたり、発想していったりする。

一方後者の例として、「みてみて おはなし」や「ウキウキ ドキドキ」「わっ！すごいな」などが挙げられる。低学年で取り上げられている絵画教材は、想像したことや感じたことなどを、思いのままに表現するという学習の流れが特徴的である。また、自分の表したいものを限定された描画材によって表すのではなく、ペンや絵の具、粘土など材料を選んで表現することが求められている。「みてみて おはなし」においても、「おおきなかぶ」を題材に取り上げて、それを平面に表したものと粘土で立体に表したものの2つを掲載し

ている。

教科書ではこれらの活動の中で、はさみ・カッターナイフ・クレヨン・絵の具などの用具を使ったり、全身を使ったりして、思いのままに造形活動を楽しむ教材を取り上げている。その活動に取り組む中でそれぞれの用具の使い方やまるめる・つむ・つなぐ・見立てる等の基礎技能を高めようという意図がうかがえる。しかし、道具や描画材の使い方に習熟することよりも、表したいことに合わせて選んだり、思いのままにそれらを工夫して使ったりすることに重点が置かれていることが分かる。

低学年の教科書教材の特徴として、並べる・丸める・積む・組み合わせる・つなぐ等の基本的な構成要素を使った学習を取り上げ、技法を学ぶというよりむしろ思いを膨らませて活動を楽しみ、一人一人の発想や想像力を働かせるといったことに重点が置かれている。

(2) 小学校中学年の教材

中学年においてはそれまでの図式的な表現から脱し、より複雑なポーズや柔軟な線によって、表情豊かな表現をめざそうとする時期であるが、写実や観察による作品は取り上げられていない。

3・4年上では「心キラリ」「そのときの気持ちを大切に」に3・4年下では、「忘れられない日々」「ゆめを広げて」を取り上げる。いずれも「…心に残った場面を…」「ものがたりやそうぞうした世界を…」「心に深くのこっている思い出などを…」「想ぞうを広げて」などの言葉から分かるように、日常生活を題材に取り上げたものでも、子どもの経験を思い出してイメージ化するものであったり、物語を読んで抱いたイメージを表したりするもので、実際に対象を見て写生するものではない。

一方で「グルグルかくかく」のように、絵の具などで描いた線で色の違いを楽しみながら線から発想して絵を描いたり、「ひもでつくろう」のように、粘土のひもづくりをもとにその組み合わせから作品を作ったりするなど、線や材料を操作し、見立てたり組み合わせたりしながら発想していく教材も見られる。これらは線や色をもとにした構成的方法による作品といえる。

(3) 小学校高学年の教材

現在の教科書では、高学年においても造形遊びが取り上げられている。「地球アート」は、校庭や林、公園などを活動の場として、ダイナミックに造形活動を行う教材である。教科書に取り上げられている写真では、落ち葉を渦巻状に敷いたり、紅葉した葉でグラデーションを作ったり、校庭に色の着いたビニールを広げたりした作品が掲載されている。

5・6年上の「こんなとき感じること思うこと」で取り上げられている作品「学校に通う道。みんな楽しそうに歩いている。」などは、遠近感を出すために遠くの車や人、道幅などと近くのそれらとの大きさを変え、遠近感を出したり、遠景の建物の柱や窓などを詳細に描いたりしていることから、部分的には写実的な方法によって描かれた作品と判断できる。しかしながら、単元名や「自分の生活をふり返ってみて夢中になったときや、いちばん好きなきなどを絵にかいてみよう。」という単元の目標、「思ったことが表れるように形や色を考えよう。」という一文からも分かるように、ねらいは自分の抱いたイメージの表現であり、必ずしも写実性を要求した単元ではないと判断できる。

高学年においても、構成的方法による教材がほとんどで、写実的方法をもとにした作品と判断できるものは、5・6年下「思いを広げて」の「わたしの町」に見られるのみである。

「わたしの町」では、遠くの友達に紹介するつもりで紹介したい町の風景を探し、自分の好きな特徴ある風景を絵に描くという単元で小学校図工教材の中で唯一の写実的方法による作品作りの単元である。教科書に取り上げられた作品も、遠景・中景・近景の重なりと建物の立体感が特徴的なもの（「町のシンボルのような美しい建物は、いつも人でにぎわっている。」）や、線遠近法をもとに町並みを描いたもの（「わたしの大好きな町なみ」）など、風景を写実的に描いたものである。また、「身近なものを見つめて」というコラムでは、植物や人物の写生が取り上げられている。

（4）中学校1年生の教材

小学校の教科書教材と比較するために、中学校1年美術科の教科書を取り上げる。中学校美術教科書は、「オリエンテーション」「想像へのとびら」「絵・彫刻」「デザイン・工芸」「鑑賞」と領域別に構成されている。

このうち、「絵・彫刻」においては、「スケッチの楽しみ」「見て、感じて」「版のよさを生かして」など、写実をもとにした単元が多い。「スケッチの楽しみ」では、6点の生徒作品が掲載されている。花びらや葉脈の様子が細かく描かれた「自然を描く」や、布の質感や立体感を出した「愛用のシューズ」など、画材の違いはあれ、いずれも対象をじっくりと観察して描いた作品である。「版のよさを生かして」では、写実的方法による作品と構成的方法による作品の両方が掲載されている。特にドライポイントによる生徒作品「休耕地」は、モノクロ写真と見まがうほどのリアリティーのある世界を表現している。また、彫刻の領域の題材「立体に表す楽しみ」でも、「使い込んだバッシュ」や「ピーマン」などは、写実的方法を生かした作品になっている。

4 造形方法と創造性

これまで小学校の学習指導要領・小学校図画工作科教科書教材を中心に分析を進めてきたが、その結果から見えてくることは、小学校においては子どもの感性を育むことに重点が置かれているということである。感性とは、「物事を深く感じる働き。感受性。」「外界からの刺激を受け止める感覚的能力。」（大辞林）のことであり、人格形成上もこの感性を育むことは大きな意味を持つと考えられる。また、心に浮かんだイメージを表出することはできるものの、まだ主観的にしか対象を捉えられない低学年において、写実的な方法によって作品を作ることは無理である。しかしながら、次第に物事を客観的に捉えることができるようになる中学年、高学年においても構成的方法による教材が中心になっていることには疑問が残る。

発達段階から見ると、対象を観察し写実しようとする試みは9～11歳の初期写実の時期に見られるようになる。心身の成長に伴ってそれまで主観的な世界を描いていた子どもが、世界を客観的に捉え空間を認識し、重なりや遠近感などを理解できるようになるからである。特に小学校高学年において明確な写実的方法による教材がわずか一つしか取り上げられていないことは、子どもの発達段階から見ても不自然なことではないか。さらに中学校第1学年の美術において、絵・彫刻の領域では写実的な方法による教材が増えているにもかかわらず小学校で写実的方法をほとんど経験しないことは、中学校に進学した子ども達にとって大きな壁になり、表現に対する自信を失わせることにつながっていくのではないかと考えられる。

もちろん小学校の段階で過度に写実的表現を強いることは、子どもに描くことへの抵抗感を強め、絵を描くことへの興味を失わせてしまう危険性があり控えるべきである。しかし、中・高学年において、自分の抱くイメージだけで作品を作るのでは、客観的に物事を見ようとする子どもの欲求を逆に押し込めてしまうのではないかと考えられる。写真やビデオ等の技術が発達した現代においても、写実的に造形することの楽しさは失われていない。低学年の頃には思いのままに作っていた子ども達も、次第にリアリティーのある絵画に心惹かれ、憧れを持つようになるのである。また、自分が経験した世界を再現するだけでは、そのときの印象や感動、それまで自分が獲得している対象についての概念だけを頼りに表現しなければならず、対象についての新たな発見や、これまでの概念を打ち破る機会をも逃してしまう可能性があるとは考えられないだろうか。写実的方法によって対象についての認識を深めさせていくことは物の見方や考え方を深めるという点からも重要なことである。

金子一夫は、造形遊びが図工科に導入された昭和52年以降を感性主義美術教育時代と名付けている。そして、「美術教師が、美術は自由なのだ、規則はないというのは、還相にある教師個人にとっては良心的言説である。しかし、それを往相にある生徒に迫ることは、生徒を無勝手流的不自由にさせ、美術の本質は才能と誤解させる。逆に美術の高度な規則性の存在を教えられた方が、美術を尊重するであろう。」(注4)と現在の美術教育を批判している。

自分の「思いのまま」に表すことに力点の置かれた現在の図工教育は、金子の言う「無勝手流的不自由」を与え、学年が上がるに従って子ども達を混乱させたり、児童の表現意欲を減退させたりしていると考えられる。基礎的な知識や技術を習得し、それを自己の中に整理し、体系化しておくことは、創造性を育む上での基礎となる。自己の思いを尊重するばかりの図工教育では、子どもは自分の尺度でしか物事を測れず、イメージやアイデアを現実化し、具体化することができなくなると考えられる。創造活動の基礎を養う小学校図工科において、構成的方法と写実的方法を子どもの発達段階に応じ適切に与えることは、創造性の育成という観点からも重視すべきことである。



どんでん ならべて



こっちに おいでよ



おもしろい かたち いっぱい



みて、みて、おはなし



ウキウキ ドキドキ



わっ! すごいな

小学校3・4年教材例



心キラリ



わすれられない日



そのときの気持ちを大切に



ゆめを広げて



グルグル かくかく



きせつの中で

小学校 5・6 年教材例



地球アート



こんなとき感じることを思うこと

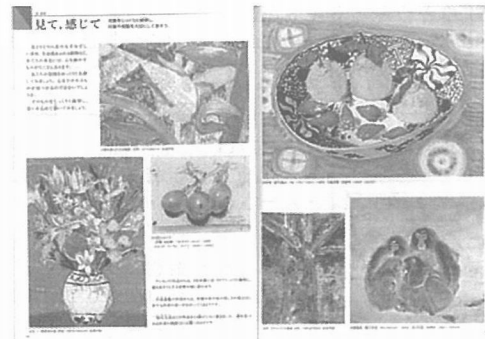


わたしの町

中学校 1 年教材例



スケッチの楽しみ



見て、感じて



立体に表す楽しみ

1・2
上 みつけたよ

番号	单元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	すきなものなあに	○			クレヨン	
2	みんななかよし	○			はさみ	はさみの使い方
3	でてきたできた	○		砂場	はさみ・のり・絵の具・クレヨン	
4	はこハコはこ	○		箱	はさみ・のり・接着剤	化学接着剤の使い方
5	どんどんならべて	○		フィルムケース・ブロックなど		並べる
6	でんどでたしざん	○		粘土		丸める・積む・組み合わせる
7	きょうかしよびじゅつかん	○				フロッターージュ
8	こっちにおいでよ	○			はさみ・のり・セロハンテープ	つなぐ・飾る
9	おもしろいかたちいっぱい	○		葉・石	絵の具	
10	みて、みて、おはなし	○		粘土	絵の具・ペン	
11	たのしいなすごいな	○		粘土	絵の具	
12	ウキウキドキドキ	○			クレヨン・絵の具・コンテ	
13	ベタベタベッタン	○			絵の具・スポンジローラー	写す
14	ニョキニョキコロコロ	○		ビニール袋・紙皿・紙コップ	はさみ・のり	

1・2
下 たのしいな

番号	单元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	いっぱいゆめいっぱい	○			絵の具・ペン・クレヨン	
2	わ!すごいな	○			絵の具・クレヨン	
3	これいいかんじ	○		紙袋・スポンジ・ビニール・紙粘土		紙粘土に水と絵の具を混ぜる
4	おはなしロボット	○		箱	はさみ・のり	
5	どんどんできるよ	○		新聞紙	はさみ・のり	つなぐ
6	かたおしかたぬき	○		粘土		型押し型抜き

7	きょうかしよ びじゅつかん	○				
8	ひかりの おくりもの	○		厚紙・セロハン		
9	ざいりょうの へんしん	○		洗濯ばさみ・紙皿等	のり・セロハンテープ	
10	見て、見て、おはなし	○			絵の具・クレヨン	
11	おしゃれな どうぶつ	○		粘土・布・紙など		
12	きって ワクワク めく ルンルン	○		色画用紙・色紙など	カッターナイフ	カッターナイフの使い方
13	うつして うつして	○				紙版画
14	ピョコピョコ ストロー マジック	○		ストロー・はさみ・ セロハンテープ		

3・4
上 ためしながら

番号	単元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	きせつの中で	○		教室・海岸・校庭等		
2	これでかけるよ	○		毛糸・段ボール紙・ 布・わた・ポリ袋など	絵の具・接着剤・サインペン・クレヨン	はり絵
3	グルグル かくかく	○			絵の具・サインペン・のり	絵の具の表現(水の量)
4	くっつけ くっつけ	○		粘土		粘土を付ける・たす
5	風パワーぜんかい	○			工作用紙・食品トレイ・フィルムケース・ストロー等	風で動く仕組み
6	心キラリ	○		画用紙・はがき	絵の具・サインペン・クレヨン	
7	ねん土でお話	○		粘土	粘土べら・針金	粘土べらの使い方
8	きょうかしよ びじゅつかん					
9	ふわふわゴーゴー	○		ポリ袋・紙袋	サインペン・接着剤・セロハンテープ・はさみ	
10	だんボールのへんしん	○		段ボール紙	カッターナイフ・接着剤・絵の具・段ボールカッター	
11	そのときの気持ちを大切に	○			絵の具・はさみ・のり	
12	みんなでつくろう！ゆめの町	○		工作用紙・箱・段ボール紙	カッターナイフ・接着剤・サインペン	箱を作る

13	広がれ生きものワールド	○		毛糸・色画用紙・和紙等	絵の具・はさみ・バレン・ローラー等	紙版画
14	切って切ってトントントン	○		木切れ・枝	鋸・金槌・絵の具・小刀	鋸・金槌・小刀の使い方

3・4
下 ためしな

番号	单元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	ざいりょう物語	○		木材・紙粘土・粘土・布・廃物等	接着剤・絵の具・はさみ	
2	キラキラ光る絵	○		金紙・銀紙・木切れ・ボタンなど	絵の具・サインペン・接着剤	はり絵
3	絵の具の不思議	○			絵の具・サインペン・接着剤・はさみ	
4	ひもでつくろう	○		粘土	粘土べら	ひもで作る
5	コロコロ コロガラート	○		工作用紙・段ボール紙・板・ビー玉など	カッターナイフ・接着剤・鋸・絵の具	接着剤のいろいろ
6	わすれられない日	○		画用紙	絵の具・鉛筆	
7	お話の世界	○		粘土・画用紙	粘土べら・絵の具・のり	
8	きょうかしよ びじゅつかん					
9	ワンダーランドへようこそ	○		段ボール紙	段ボールカッター・絵の具・接着剤	
10	ぬのから 生まれた	○		布など	はさみ・のり	
11	ゆめを広げて	○		画用紙・色画用紙・新聞紙など	絵の具・はさみ・接着剤	
12	ハッピーカード	○		工作用紙	はさみ・サインペン・接着剤・パソコン	飛び出す仕組み
13	木から生まれた世界	○		木版	絵の具・ローラー・彫刻刀・バレン	彫刻刀の持ち方・彫り方
14	へん身 パッ!	○		段ボール紙・ビニール袋・色セロハンなど	カッターナイフ・絵の具・OHP・パソコン・プロジェクター	

5・6
上 自信をもって

番号	单元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	ダイナミックスペース	○		校庭・遊具・木材・ビニールなど	鋸・金槌・絵の具・はさみ等	
2	トローリかたまれ	○		液体粘土	絵の具・接着剤	
3	ゲートをぬけてゴールイン	○		針金・木切れ・割り箸・段ボール紙など	カッターナイフ・接着剤・はさみ・ペンチ等	

4	こんなとき感じると思うこと	○	△	画用紙	絵の具・サインペン	
5	動くよ動く絵が動く	○		工作用紙・割り箸・竹ひごなど	サインペン・カッターナイフ・パソコン	
6	ほって刷って	○		木版	彫刻刀・絵の具・バレン・ローラー等	掘り進み木版
7	きょうかしよ びじゅつかん					
8	曲げてねじって	○		粘土	粘土べら	板作り・ひねり出し・ひも作り
9	光とかげ	○		色セロハン・ペットボトル・厚紙など・電球・ブラックライトなど	接着剤・はさみ・絵の具	
10	板を切りぬいて	○		板	電動糸鋸・絵の具・サインペン	電動糸鋸の使い方
11	心広がる場面	○		画用紙・色画用紙	絵の具・サインペン	
12	広がれアート!	○		商店・校内・板など	絵の具・糸鋸・接着剤・ペンチ等	
13	きょうかしよ びじゅつかん					

5・6
下 思いを広げて

番号	単元名	構成的方法	写実的方法	主な材料・場所	主な用具	主な技法等
1	地球アート	○		校庭・山・公園・田など	カッターナイフ・鋸	
2	やさしい紙	○		色々な紙・針金など	はさみ・接着剤・ペンチ	
3	くねくねアート	○		針金・電球・アルミ缶など	ペンチ・接着剤	ペンチと針金
4	わたしの町		○	画用紙	絵の具・サインペン・鉛筆	
5	ユラユラ クルクル	○		段ボール紙・工作用紙・針金など	ペンチ・はさみ・接着剤・カッターナイフ	クランクの仕組み
6	色を選んで	○		木版・画用紙	絵の具・彫刻刀・バレン・木炭・コンテ	
7	きょうかしよ びじゅつかん					
8	のばして、まるめて、くっつけて	○		粘土	粘土べら・たたら板	たたら板で粘土を板にする
9	わくわく カーニバル	○		紙袋・木材など	絵の具・カッターナイフ・接着剤	
10	生まれ変わった板たち	○		板	鋸・金槌・電動糸鋸・ぎり・絵の具	板の張り合わせ方・木取り
11	心広がる場面	○		画用紙	絵の具・サインペン・コンテ	

12	夢を集めて	○		箱・布・工作用紙など	絵の具・接着剤・カッターナイフ・電動糸鋸など	
13	きょうかしよ びじゅつかん	○				

美術1 自由な心で

番号	单元名	構成的方法	写実的方法	番号	单元名	構成的方法	写実的方法
■絵・彫刻				■デザイン・工芸			
4	スケッチの楽しみ		○	10	自然の形や色を生かして	○	
5	見て、感じて		○	11	土と炎の出会い	○	
6	心に残る情景	○		12	遊び心のかたち	○	
7	想像の世界へ	○		13	動く絵の楽しさ	○	
8	版のよさを生かして	○	○	14	文字を生かしたデザイン	○	
9	立体に表す楽しみ	○	○				

(「絵・彫刻」「デザイン・工芸」を抜粋)

注

- 1 林健 福田隆眞 「児童の創造性を高める図工教育に関する一考察」
山口大学教育学部研究紀要 2005
- 2 福田隆眞 「バウハウスとヴフテマス」 山口大学教育学部研究論叢第39巻第3部
1990年
- 3 文部省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 日本文教出版株式会社 H11年
をもとに述べる。
- 4 金子一夫 「美術科教育の方法論と歴史」 中央公論美術出版 H10年 P.233

参考文献

- 文部省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 日本文教出版株式会社 H11年5月
- 「ずがこうさく 1・2上」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「ずがこうさく 1・2下」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「図画工作 3・4上」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「図画工作 3・4下」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「図画工作 5・6上」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「図画工作 5・6下」 日本児童美術研究会 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 「美術 1」 花篤實 中村晋也 熊本高工監修 日本文教出版株式会社 H17年1月
- 金子一夫 「美術科教育の方法論と歴史」 中央公論美術出版 H10年3月
- 恩田 彰 「創造性開発の研究」 恒星社厚生閣1980